



徳山大学 校友会誌

第7号

発行所 徳山大学校友会
〒745 山口県徳山市久米
徳山大学学生課内
TEL 0834 (28) 0411 (代)
発行責任者 豊岡正行
編集発行人 秋本辰己
印刷所 スギ写植印刷所



S 60.7.13 徳山大学校友会10周年記念同窓会 (於) 丸福ホテル

第四回 徳山大学同窓会開催

お久しぶり 元気そうだな
参加したOB諸氏の懐かしげな顔、笑い、
感激で場内は熱気と学生時代の想いに満ち
ていた。

昭和六十年七月十三日(土)、徳山市、丸福
ホテルを会場に、第四回徳山大学同窓会が
盛況に開催された。このたびの同窓会は、
校友会十周年記念事業の一環として開かれ、
趣向をこらした企画が多数催された。多忙
にも拘わらず参加されたOB諸氏も、山口、
広島県内をはじめ、九州、四国、関東地区
からも多数のご参加をいただき関係者の一
人として大変嬉しく思う。

大学側からは、高村坂彦理事長、不破勝
敏夫学長、今田竹千代元学長をはじめ諸先
生方のご臨席をいただくとともに、本会開
催に当たり多大なご尽力をいただいた。特
に、今田元学長には、遠路はるばる東京か
らご出席いただくともに会員一同に心暖
まるお言葉をいただき深く感謝している。

本会開催に先立ち、OB諸氏全員の記念
写真を撮影。その後、ゴールデンルームに会
場を移し山口放送アナウンスの司会進行で
本会が開催された。高村理事長、今田元学
長のご祝辞をいただいた後、不破勝学長の
乾杯の音頭と同時に、タキシードに正装し
た本学吹奏楽団の演奏する校歌が会場一杯
に勇壮果敢に奏でられた。素晴らしい演奏
である校歌がこんなにも胸に響くとは、一
期生から四期生の間には、初めて校歌
を耳にされたことと思う。また同時に課外
活動の充実と本学の着実な発展を皆様に
想ったに違いないだろう。ここで申し述べて
おくが、吹奏楽団は、五十八年に全日本吹
奏楽コンクールに出場し、常に中・四国大
会で上位に入賞している。吹奏楽団は、本
会の催し、場内の雰囲気併せて、クラッ
シック、ポピュラーなど次々に演奏してく
れた。次に会場を盛りあげてくれたのは、本
学城ヶ丘寮生三十名による繁盛太鼓である。

全員が白地の法被^{ほっぺ}ねじり鉢巻で、参加し
てくれた。十周年の節目を迎えた校友会の
発展と、OB諸氏の絆を一層強く讀めるか
のように轟く太鼓の音に全員が手拍子、興
奮のあまり飛び入りで学生と一緒に太鼓を
打ち鳴らすOBも出て、場内から笑いと盛
んな拍手が飛びかっていた。この光景を見
てOB諸氏と学生の心の中に、本学の伝統
が着実に育って来ていることをとても嬉し
く感じた。学生諸君には、夏休みにも拘わ
らず本会参加の為に練習に励んでくれたこ
とに心から感謝の意を表わしたい。

繁盛太鼓で盛りあがった場内の照明が突
然消えた。本会企画のスライド上映である。
OB諸氏には懐かしい本学開設当時の学内、
周南地域を時代の変遷に合わせて編集し、
学生時代を懐古していただく企画である。
スライド編集された、本学庶務課の藤岡正
史(二期生)の活弁士顔負けの巧みなアド
リブ、懐かしい歌ありで百枚のスライドを
語り続けてくれた。

最後に、本会での特筆すべき報告とし
て、東京から駆けつけてくれた、中山剛・
中村厚彦(二期生)両氏から校友会関東支
部を結成したい趣旨の声明文を発表され豊
岡正行会長に手渡された。結成時期は、昭
和六十一年四月を予定している。広島支部
に続く関東支部結成は、校友会組織の拡充
に大きく貢献してくれるものと期待してい
る。更にもう一点ご報告したい。OB諸氏
も良くご承知の、脇英夫先生のご協力をい
ただき、本会開催に合わせて、脇演習の同
窓会を結成されたことである。先生のお名
前から名称を「英会」とし本会に花を添え
ていただいた。(三面掲載)

以上本会の開催は、今後益々の校友会発
展を願うべき序曲ではありますが、参加さ
れたOB諸氏はもとより、次回の同窓会へ
多数のご参加がありますようお願い申しあ
げご報告いたします。

同窓会スナップ



今田元学長挨拶



豊岡 校友会会長開会の挨拶



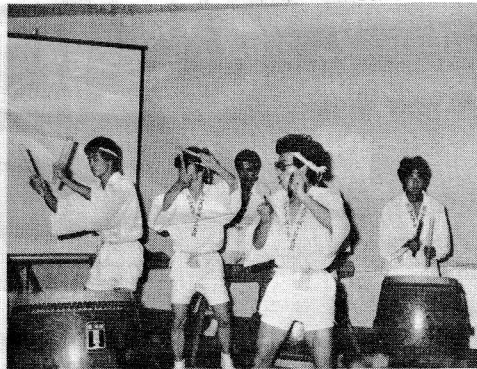
山口放送司会



脇先生挨拶



関東からかけつけてくれた2人にちょっと一言



繁盛太鼓



左から 今田・高村・不破勝先生



徳山大学吹奏楽団演奏



万歳賛唱



協演習卒業生の皆様へ 「英会 結成」

皆様お元気で過ごしてしょうか。

昭和六十年七月十三日、徳山大学校友会十周年記念同窓会の日、同会場で協演習卒業生の連絡と親睦をはかるため第一回目の集会を持ちました。二期生から九期生まで十数名集まり近況報告のあと協演習履習者百七十名の親睦連絡機関の会を結成し、協先生の名前に因んで英会と命名しました。

英会では、今後連絡を強め親睦をはかるため、会員名簿の製作配布、会報(会員近況報告など)も発行することになりました。近況報告未提出の方は、住所・勤務先などご記入の上英会事務局までご返送下さい。



「英会結成式参加者」

日隈 栄二(八期)

あつという間に卒業後四年たちました。広島マツダで歌って踊れる営業マン目指して日々頑張っています。会社が飲食街に近くネオンが恋しくなっています。

城市 隆利(九期)

現在大阪にて板紙・洋紙・特殊紙関係の販売をしております。本年度で四年目ですが得意先数が少ないので新規開拓に毎日頑張っています。

白井 輝二(四期)

親父が家を新築してくれましたが、まだ引越ししていません。見合いをしましたが決まっています。

せん。花嫁募集中!

笠矢 武和(十期)

先生お元気ですか。現在実家から地元の農協に勤務しています。

徳重(秋富) 克子(五期)

61年4月、長男貴、幼稚園入園予定、長女沙綾香は二才、主人は国鉄に勤務しています。

坂本 正樹(九期)

協先生、御健在でなによりです。昨年10月12日、に結婚しました。機会があれば一度同期生同志で一席場をもちたいと思っています。

「徳山大学校友会内 英会事務局 電話〇八三四―二八〇四―一」

近況報告

協 英夫

昨年英会が結成され、懐かしい諸君へご挨拶できるのは、何より嬉しいことであります。

諸君はお元気ですか。一別以来長きは十年にもなる方もあります。が、諸君は卒業以来成長を遂げて社会の各方面で活躍中のことと存じ、何よりと慶賀申し上げます。私も毎年歳を重ねて、昨年は喜寿を迎えましたが、気分と意気込みは毎年若くなつて、日々研究と執筆にとり組んでいます。昨年「防長婦人相愛会の携帯乳児育児につ

いて」を発表しましたが、「携帯乳児」の研究では唯一のものとの評を受けました。

諸君の演習授業では不十分なことばかりであったと反省することがよくあります。若し可能ならばもう一度やり直したいところですが、皮肉にも人生にはやり直しはできません。

現在徳山大学では、「社会学」「社会政策」「社会科学教授法」の授業を非常勤講師として担当しております。

諸君のことし一年のご健康とご活躍をお祈りいたします。

徳山女子短期大学校舎建設に着手 (六十二年開校をめざして)

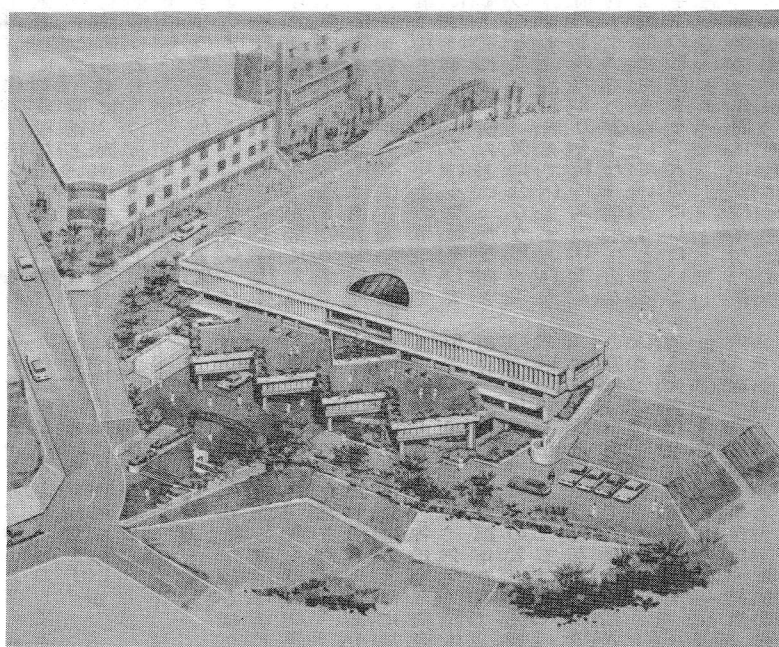
瀬戸内海の島々を一望に収めるこの翠緑豊かな城ヶ丘の丘陵に、また新たなキャンパスが建設される。

昭和六十二年四月の開校を目指す徳山女子短大の起工式が、旧う十八日、徳山大キャンパス内の建設予定地で行われた。式には、同女子短大の学長を兼任する高村坂彦 徳山大学理事長をはじめ小川亮 徳山市長、ら約40名が出席した。

周南地区では初めての同女子短大は、徳山大学の経営母体である学校法人徳山教育財団が、徳山市の協力を得て、昭和六十年七月に文部省に開学申請し、同年十月に大学設置審議会及び私大審議会のヒアリングから内諾を得て着工に踏み切った。短大校舎は、徳山大グ

ラウンドの西側に建設し、女子学生を迎えるに相応しい個性的で、ハイセンスな雰囲気漂う四階建てで総工費5億円を投じるという。一階に学長室・事務室・エントランスホール・コンピュータ室・研究室等。二階には教室(4部屋)・教養室(2部屋)・会議室等。三階は教室・研究室。四階はコンピュータの端末機50台・大講義室が設けられる。また、徳山市須々万には約2万平方メートルの広大なグラウンドが造成される。

同女子短大の募集定員は、経営情報学科一〇〇名となっており、周南地区の女子教育の充実と社会での即戦力となる知識と学力を身に付けることを目的としている。コンピュータのハードウェアはもちろん、一般教養、専門学、



経営学、情報管理学、外国語などを学び、現在の情報化時代のニーズにかなうべき学科と思われる。

ここで、開設時の教授陣を紹介する。まず学長には、高村坂彦(徳山大学理事長)、学科長・村田憲太郎(徳山大学教授)、教授・浅野一郎(参議院法制局長)、植木英治(徳山大学助教授)、勝原文夫(国立国会図書館調査立法

学園短期大学非常勤講師)となっている。

現代は、コンピュータ時代と呼ばれ、あらゆる分野に情報化の波は浸透してきている。同時に、女子の高等教育機関への進学率の上昇とともに、女性の社会への進出、職域の拡大も時代の趨勢として定着してきている。こうしたエレクトロニクスの急速な技術革新と、情報化社会に対処するために社会は女性に対して、専門知識を修得した情報処理技術者を必要としてくる。開学以来15年を経て、新たな期待と支援のもとに女子短期大学を併設することになった本学の使命と責任は、いよいよ大きい。

O・Bだより

人とのふれあい



大正海上火災保険働務

岡 浩治

八期生

「こんにちは、いつもお世話になります。大正海上の岡でございます。この言葉で一日の営業活動が始まる。私の仕事は、損害保険の代理店業務です。」

大学を卒業して今春で早四年。

生来、人前で話をするのが苦手な私が、なぜ営業の仕事を選んだか、今でも悩む時が多々あります。

入社当時は、親しい友人ならともかく初対面の相手側に保険商品の説明どころか、自分自身の売り込みに四苦八苦の連日。今、自分がなを話しているのか、本人が分からなくなる事さえありました。

一年目は、うまく話そうなどとは、全然考えませんでした。ただガムシヤに働いた記憶があります。

す。それでも、何とか挫折せずにやってこれたのは、第一に暖かく見守ってくれた両親や同級生、そして応援して下さいた会社の方々のおかげだと思います。

相手側とキャッチボールをして、投げたボールが全て返ってくる。優秀な先輩代理店の方を拜見して

いると、そんな完全試合を常に行っているようにも思えました。自分とはかけ離れた営業活動をしているに違いない、自分とは違うんだと。

仕事が出来ない時は、なおの事、頭の中をこの言葉がかけめぐります。自分の力のなさに情けなくなり、御客様との対応にも自信が持てなくなる。悪循環の繰り返しです。責任を他に転嫁して、自分自身を見失ったり、無駄に時間を費やしたり。

そんなある日、母が話してくれました。「一朝一夕に、先輩代理店のようには、なれる筈がない。なろうとするな。そうです。私は数字の上で、先輩と肩を並べようと背伸びをしすぎていたのです。先輩が、長年培ってきた人間関係を半ば無視して、仕事の結果を求めているのです。営業の仕事は、マラソンレースです。準備運動を充分し取り組まないとゴールはおろか、途中でリタイヤしてしまいます。」

人と人との触れ合い、途中のプロセスがないとお互いに、理解し合うことは出来ません。私は、今後より多くの人々と出会い、心が通い合った仕事が出来よう努力したいと思います。いつも笑顔で、「こんにちは！」心がけたいですね。

夢を心に



周陽福祉作業所勤務

通山 賢一

十一期生

僕が大学を卒業して、早くも二年の歳月が流れ去りました。今振り返ると、楽しい思い出ばかりだった気がします。

学生の時には、いつも身近かに青い空と碧い海、セイルをよぎるこち良い風があり、頭の中では、南太平洋クルージングなどと、心は世界を駆け巡り、いつか行くはずのヤシの小島の白い砂浜と、空いっぱいの夢と希望を食べながら生きていました。それはまさに天国の様でした。

しかし、社会の中で、空や海は僕の囲りからどんどん遠ざかりつつある様な気がします。これは、しかたの無い事ですが、とてもさみしい気持です。

時々、海に出て心の洗濯でもと、暇を見つけては(実はむりやり)海へ行く今日このごろです。現在僕は、社会福祉法人周陽会、周陽福祉作業所と言う、身体障害者通所授産施設に勤務しており、障害者と一緒に毎日仕事に励んでいます。

仕事の内容は、陶芸をやっていますが、陶芸と言っても皿や茶碗ではなく土鈴を作っています。ど

れいとは字のごとく、土で作った鈴の事で、その紀元は遙か昔に溯り、音は昔なつかしい音色です。土鈴作りはなかなかシビアで、ひとつとして同じ音色が出ず、それぞれ個性がありとてもおもしろいもので、まさにそれは自然です。僕はこの自然と言う言葉がとて

も好きです。自然の中には、何でもある様な気がします。人も自然の一部ですから、自然流に生きれば最高だと思っています。しかし、まだまだ始まったばかりでこれからやらなければならぬ事が山ほどあり、仕事も思い通りに行かず毎日が勉強の連続で、仕事に通所者から教えられる事も多く、特に人間については、また新しい何かが見えたような気がしました。

これからも、嵐の中をつっ走る事も多々あることでしょう。しかし、心の中には、いつも夢や希望でいっぱいにしてこれからも社会の中で自然流に生きて行きたいと思っています。

何んのために生きるかと問われたら、僕はしあわせのために生きる」と答えた。

私の近況

徳山大学勤務

十一期生

中村道陽



私は、昨年四月徳山大学職員として母校へ奉職させて頂いたことが、昨年の四月にも参加させて頂きました。学生という立場から、職員という立場に変わって間もない頃、心のけじめをつけることのむずかしさを感じていた頃でした。しかし、学生達の日程を、ひとつ、ひとつこなしていくその真摯な様子を見ている時、私は、彼らのために、一生懸命やらなければならないという、決意が湧き上がったのでした。

私は、幸いにして、母校へ勤めさせて頂いたことができて、学生達の中で様々なことを感じ、充実した日々を送らせていただいております。OB会にとっても、後輩達にとっても、徳山大学のよき窓口になれるよう、努力してまいりたいと思っております。

ご連絡

校友会名簿、校友、完成

校友会誌第六号で紹介しておりますが、十周年記念名簿が昨年七月発行されました。多くの会員諸氏に利用していただきたい。

内容は、昭和五十年第一期生、昭和六十年第一期生の名簿に加え、徳山大学沿革、各年度卒業表彰者一覧、学生団体、クラブ団体紹介、文化、体育課動態表等、二〇〇頁におよび本学の着実な発展を紹介するものとなっている。

尚、会員諸氏で、「校友」ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

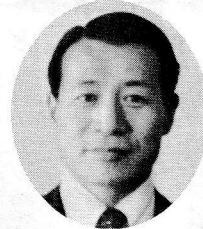
徳山大学校友会事務局

内線 〇八三四二二八〇四一

内線 二三四 事務局・担当 奥田洋子

OB諸君へ

「ア・ピアント」



(教授)
深澤 郁喜

(経営学総論・経営組織論
外国書講読Ⅰ 演習Ⅰ・Ⅱ)

襟に淡い青の小振りの野菊の花を着けてみた。庫本先生(秋吉台科学博物館長)の言われた名前は、その時は繰り返されても今はもう耳に残っていない。その清楚なたずまいと確かな存在感をこの身にも着けてみたかったのである。

秋吉台の丘は、すすきにおおわれて、遠望すると薄絹をまとっているように見える。アキヨシアザミ、リンドウ、アキノキリン草、白や紫の花をつけた漢方薬草などがそこそこに咲いている。今は秋だが、貴方は、初夏の頃の秋吉台を憶えていますか。

オリエンテーションで、一緒に長者の森や名も知らぬ丘を巡ったことも、ちょっとした空地を見つけてソフト・ボールをしたこともありました。学園生活のことも憶えていますか。社会の第一線で活躍されている貴方には、昔のことなど振り返る暇もないかも知れませんが、併し、大学も貴方を送り出

してからも着実に成長して来ています。殊に第1期・2期の方々が今の大学を見たらきつとびっくりされるでしょう。徐々にではありますが、着いたムードが醸し出されて来ています。暇な折を見つけて、また学園を訪ねて見て下さい。そして、貴方のお仕事やここの勉強の成果が社会に出てどうであったのか教えて下さい。また貴方が社会に出て必要と思われる知識などがあつて、それを学びたいのであれば、出来る限りの便宜を図りましょう。この変転極まりない社会にあつてお互い何かの縁でお会いしたのですから、之からもお互いに助け合つてまいりましょう。

貴方も社会にあつて、本学の出身であること、そして貴方に無限に多数の後輩達がいることを忘れないで下さい。貴方が欠伸をしながら(本当は熱心にノートを取っていてくれたかも)我慢して小生の講義を聞いてくれた学舎、汗と時には涙も流して練習に励んだ褐色の校庭、今も瀬戸内の海を望んでいます。ここ秋吉台の上に広がる青い空、ドリーネの上や露岩をなでて吹き上がつて来る空気、これらは皆、貴方のところは勿論、遠く地球の果ての空や空気とも連なっています。今ここで、大きな声で叫んだら、その空気の振動が貴方のところまで届きそうな気がします。秋の秋吉台の名物は、朝霧と夕焼けです。

新たな動機で自己研修を



(教授)
沼野 治郎
(英語担当)

ある日東京から電話がかかってきて、「徳大何期卒で、某社に勤めています。先生突然ですが英語のことで助けて下さい。先輩社員の結婚に気の利いた英文の祝電を打つよう言われたのです」というまたある日電車に乗って仮眠を楽しんでいると「すみません、沼野先生ではないですか」と声をかけられた。「この春外食産業で働き始めたのですが、外人の客が割合多く、これこれの時英語でどう言えよいのでしょうか」と熱心にノートを取り出して聞かれた。かくして即席の個人授業の小一時間となったことがあった。

社会に出ると刻一刻が勝負の場面、息を抜くことができない。少しでもよい社員になり、成績を上げようという希望から、学生時代には感じられなかった新しい自己研修の動機や意欲がわいてくることがある。仕事の時間外にしなければならぬので楽ではないが、社会人になってから改めて学び直す、あるいは新しい事柄を学び始めるのは楽しいことではないだろうか。

近況報告



(講師)
川瀬 進
(西洋経済史
教養ゼミⅠ・Ⅱ
外国書講読Ⅰ)

実社会で活躍している卒業生の皆さん、それぞれ様々な分野で働いているわけですが、必要な時には遠慮なく母校(アルマ・マター)の研究室や研究所に助けやヒントを求めていただいとうと思ひ、情報収集に不可欠な語学を始め、各自に求められている研修を積極的に積んでいってもらいたいと思います。人生は広い意味で終わることのない自己教育の場だからです。またその過程で自己のスキルや巾を広げ、生活を豊かにする趣味や、ストレスを解消するスポーツ、文化活動の場を見つけていくことができれば、「日本人は文化の乏しい働き蜂」の非難を返上し、真に人生を享受できる境地にも近づけるのではないかと思います。

だが、もう一二年、徳山大学に残って勉強したいという学生もいることから、この寂しさは、少しは和らぐ。

60年度に担当した教科は、教養ゼミⅠ・Ⅱ、外国書講読Ⅰ、西洋経済史である。教養ゼミⅠ・Ⅱ、外国書講読Ⅰに関しては、受講生が少なかつたせいもあつたか、非常に授業がやりやすかつた。特に外国書講読Ⅰにいたつては、そうである。新任した当初、外国書講読Ⅰに勉強しない受講生がかなりいて、私は四割近くその学生を落さざるをえなかつた。OB諸君の中には、心当たりがあるものが多いはずである。その当時の熱血漢は、いまだに変わりはない。

最近、私の受講生の中には、私の性格・気性を良く知つて単位を取りに来る学生が多くなつたように思われる。私の教科を受講する学生は、私の単位を得るための必須条件、すなわち私と要領よく付き合う技法を取得したのである。

私は、バスケットボールが大好きである。だが、バスケットボールに関しては、全くのド素人である。16時20分頃にバスケットボール部の練習に参加させていただいているのであるが、OB諸君の元部員には、迷惑をかけたと思う。それよりもなお迷惑をかけたのは、監督である佐藤先生である。また四月からコーチになられる秋本氏にも迷惑をかけることであろう。いまだにその迷惑を省みず、練習に参加させていただいているのである。二月八日に、はじめて部の追い出しコンパに参加した。いまでも主務からの誘いがなかつたわけではないが、行かなかつた。

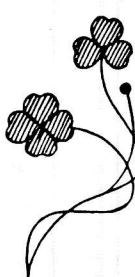
大変に好感がもてる状況ではなかつたが、雰囲気が好きなので、誘いがあれば来年も行きたいと思う。現在の心境としては、恐らく誘いがなくても行くことであろう。

私の教養ゼミⅠ・Ⅱでは、挨拶および返事、時間厳守をくちやかましくいっている。この挨拶および返事、時間厳守は、人間生活のうえで行わなければならない最低限度のマナーだからである。もしOB諸君の中で、このことにピンときたら、意識的に実行してほしい。この三つのマナーがきちんとできていなければ、人間性が軽く見られることであろう。私も徳大のOBである以上、この三つのマナーをきちんと実行していきたい。

OB諸君の中には、10号館、記念館、新図書館を知らない者がいるはずである。ぜひ徳大に遊びに来て欲しいものである。

退職者一覧

(依退)
深沢 郁喜 徳山大学教授
経済学総論、経営組織論、
外国書講読、演習Ⅰ・Ⅱ
(依退)
貞方 昇 徳山大学講師
地理学、教養ゼミⅠ、地理
学概論、地誌学、社会科
育法Ⅱ



クラブ活動報告

第34回 全日本大学野球選手権大会

出場 硬式野球部

硬式野球部は、春季中国六大学リーグ戦において10勝2敗で完全優勝を遂げ、続いて五月十六日、四国リーグの代表校・愛媛大学と対戦し、2勝0敗で優勝、西部地区代表として5度目の全国大会出場権を獲得した。

臨んだ。

始球式も終わり、審判の右手が上がると同時にプレイボールのサインが高々と鳴り響いた。

一、二回は、両大学無得点のまま、三回表、東洋大は、一死から右中間二塁打を皮切りに、四球を

そして、本学硬式野球部は、第34回全日本大学野球選手権大会に西部地区代表として出場した。六月十二日午前9時30分開会式、各地区リーグ戦を勝抜いてきた全国16大学で行われた。

本学野球部主将、寺田文俊君が力強く選手宣誓を行った。そして、「今年こそ第一回戦突破を！」の期待を込めて選手一同東都大学リーグの雄、東洋大学との対戦に



左翼手後方へ伸びていく。しかし、フェンスぎりぎりのところで、みんなの声援も伝わらずに、白球は左翼手のグラブへ吸い込まれた。同時に、三塁走者は、ホームインで、1点を返した。ここで東洋大監督は、先発北島投手を諦め、日野投手をリリーフに送った。

徳山大は、日野投手の速球と変化球が絶妙のコースに決まり、八回まで無安打に封じられた。

一方、東洋大はその後4点追加し、結局①⑧(八回コールド)で、徳山大は悔しさを噛みしめながら神宮球場を後にした。

昭和60年度課外活動状況

昭60. 1. 2	第35回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会出場(～6日)
1.19	寒行(光市虹ヶ浜)
1.20	第16回全日本大学駅伝対抗選手権大会出場
4. 1	文化・体育連合会会長 松本忠宏
4.20	リーダーズ・キャンプ(～21日、芳山園)
5.22	第10回大育祭
6.12	第34回全日本大学野球選手権大会出場(硬式野球部)
6.27	全日本大学柔道優勝大会出場
7. 5	第33回全日本学生剣道選手権大会出場
7.16	全日本学生テニス選手権大会出場(大塚慎一)
7.31	全日本学生弓道選手権大会
8. 3	正剛館全国空手道選手権大会出場
8.19	全日本大学L号軟式野球選手権大会出場
8.27	全日本学生選手権大会出場(レスリング部)
9.14	フレッシュマン・キャンプ(～15日、光青年の家)
10.10	第4回全日本学生柔道体重別選手権大会出場
10.12	ワンダー・フォーゲル(～13日、石城山)
10.13	全日本学生選手権大会出場(陸上競技部)
10.13	第36回全日本学生バドミントン選手権大会出場(今井智士)
10.14	第2回回生休み大運動会(～12月4日)
10.18	第33回全日本学生剣道優勝大会
10.19	インストラクターズ・キャンプ(～20日、芳山園)
10.31	第7回維新の道(萩往還)
11. 6	第16回明治神宮野球大会出場(硬式野球部)
11.30	全国学生合気道演舞大会
12. 1	第29回中・四国学生駅伝優勝
12. 4	文化・体育活動表彰式
昭61. 1.15	硬式野球部・寺田文俊、日本学生野球協会より表彰される
1.18	寒行(虹ヶ浜)
1.19	第17回全日本大学駅伝対抗選手権大会出場

「私自身、東洋大と比較し、ハッとしており、今年は全国で16人(昨年度12人)を選出。西部地区連盟の中では徳山大学の寺田文俊投手が、ただ一人選ばれた。

今後の硬式野球部の選手への期待したい。

中国学生駅伝六連勝!!



中・四国地方の大学駅伝の雄を決める師走恒例の第29回中国四国学生駅伝競争大会は、十二月一日、山口市民館前を午前9時スタート、防府市右田、佐波郡徳地町を回り、山口市の中国新聞社前をゴールとする6区間、65・6キロメートルのコースで行われた。参加チームは24チーム(うちオープン参加7チーム)で選手たちは沿道の市民の声援を受け、初冬の防長路で熱戦を展開した。前半出遅れたものの安定した実力を発揮した徳山大学Aが3区で首位に躍り出て以後は独走、前人未踏の六連勝を3時間33分47秒の大会新記録で飾った。

尚、本学Aチームは六年連続で一月十九日熱田神宮(伊勢神宮間で行われた全日本大学駅伝に中・四国代表として出場し、13位に入る健闘を見せた。

(写真提供・中国新聞社)





維新の道に挑む

昨年十月三十一日第七回維新の道をたずねる―萩往還踏破―が行われた。この維新の道とは、近世防長主要路として、藩府萩から三田尻までを結ぶ全長五十三キロメートルの萩往還のことを言う。今回もこの内の山口から萩までの三十三キロメートルを歩いたのである。

早朝五時五十分本学に集い、バスで出発地の山口へ向かった。この中には女子学生五名、そして、中国からの留学生董さんの顔もあった。午前八時瑠璃光寺にて、結団式が行われた。今回の団長である佐原学生部長から、「維新の志士たちが往來した歴史の重みをかみしめながら、元気にそして、安全に気を配りながら、全員踏破しましょう」と激励された。

瑠璃光寺を出発して、やがて一の坂の旧往還道に入った。道は、最近整備されてはいたが、昔の人々はこのような急傾斜の道を歩いたのかと思えば、車社会に慣れきってしまった私達にとって無言の教訓のようでもあった。延々と坂を登りやがて、国境の碑という、防長二国の境を示した石碑のところで休憩となった。教職員学生共ここでジュースを飲み喉を潤した。

夏木原を過ぎ、日南瀬から国道二百六十二号線を通り、旧宿場町佐々並へ到着した。本日のメニューは、学生食堂の方々が早朝三時より取りかかって作られたにぎりめしと、学生主事室の方による苦心の作、佐々並名物豆腐入り豚汁であった。かつての宿場町の名物を味わいながら、学生も往時を忍んでいたようであった。

午後十二時四十分より再び出発した。かなり参加者の疲労も感じられたが、実行委員長の今本康徳君による「エイエイオー」の掛け声で気合いを入れ直した。この道の最大の難所一升谷では、空もやや厚い雲が覆うようになった。ここでは、全く人の歩いた跡が見えず草木の生えるがままだ道なき道を、佐藤英雄先生の先導で歩いた。話しながら歩いていった学生も、さすがにここでは緊張した面持ちであった。

昭和60年度文化体育活動表彰について

最優秀賞

	氏名・サークル	理	由
団体	該当無し		
個人	該当無し		

優秀賞 (団体・個人)

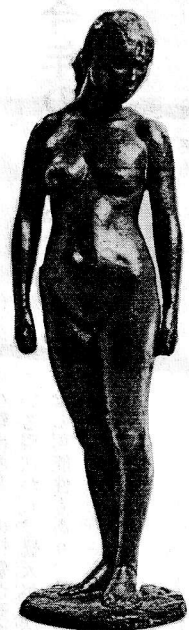
	氏名・サークル	理	由
団体	剣道部	第32回中・四国学生剣道優勝大会	優勝
	陸上部	第29回中・四国学生駅伝競争大会	優勝
	硬式野球部	中国六大学野球春・秋リーグ戦	優勝
	柔道部	第34回中・四国学生柔道優勝大会	優勝
	軟式野球部	西日本地区大学軟式野球春季大会	優勝
個人	剣道部	第32回中・四国学生剣道大会	最優秀選手賞受賞
	剣道部	第32回中・四国学生剣道大会	優秀選手賞受賞
	柔道部	中・四国学生柔道体重別選手権大会	95kg超級 優勝
	硬式野球部	中国六大学野球春季リーグ戦	最高殊勲選手賞受賞
	硬式野球部	中国六大学野球春季リーグ戦	首位打者賞ベストナイン受賞(三塁手)
	硬式野球部	中国六大学野球春季リーグ戦	ベストナイン受賞(二塁手)
	硬式野球部	中国六大学野球春季リーグ戦	ベストナイン受賞(遊撃手)
	硬式野球部	中国六大学野球秋季リーグ戦	最高殊勲選手賞・首位打者賞・ベストナイン受賞(一塁手)
	硬式野球部	中国六大学野球秋季リーグ戦	ベストナイン受賞(外野手)
	軟式野球部	西部地区大学軟式野球大会(春)	最高殊勲選手賞(投手)
人	軟式野球部	西部地区大学軟式野球春季大会	ベストナイン受賞(一塁手)
	軟式野球部	西部地区大学軟式野球春季大会	ベストナイン受賞(外野手)
	軟式野球部	西部地区大学軟式野球春季大会	ベストナイン受賞(外野手)

個	軟式野球部	西部地区大学軟式野球秋季大会	敢闘賞受賞
	軟式野球部	西部地区大学軟式野球秋季大会	ベストナイン受賞(二塁手)
	レスリング部	西日本学生選手権大会グレコローマン	57kg級 優勝
	レスリング部	西日本学生選手権大会グレコローマン	82kg級 優勝
	陸上競技部	第39回中・四国陸上選手権大会	丸上直人(2年) 100 m 1 位
人	陸上競技部	第39回中・四国陸上選手権大会及び中・四国学生選手権大会	米田・今井丸上・向田中 4 × 100 m R 1 位
	陸上競技部	第39回中・四国陸上選手権大会	新宅利章(3年) 走高跳 1 位
	陸上競技部	第39回中・四国陸上選手権大会及び中・四国学生選手権大会	宮地義昭(3年) 円盤投 1 位 (学生選手権大会にて中・四国学生新を出す)
	陸上競技部	中・四国学生陸上選手権大会	米田 修(4年) 100 m 1 位
	陸上競技部	中・四国学生陸上選手権大会	米田 修(4年) 100 m 1 位

特別賞

団体	経済学研究会	第32回日本学生経済ゼミナール大会出場 テーマ「世界市場と景気変動論」
	植木ゼミ	第32回日本学生経済ゼミナール大会出場 テーマ「企業戦略の実態と今後」
個人	柔道部 山本竜正(4年)	60年わかとり国体出場
	柔道部 南出徳仁(2年)	60年わかとり国体出場
	陸上競技部 米田 修(4年)	60年わかとり国体出場
	レスリング部 友森五郎(2年)	60年わかとり国体出場
	自転車同好会 山口俊正(3年)	60年わかとり国体出場
	池本 健(1年)	全日本アマチュア将棋名人戦出場

「乙女の裸像」贈呈



でかついで歩いたもの、全員完歩したのであった。
ひとつのことを成し遂げた感激の中で、学生と教職員の生の心の触れあいが、あったのではなかろうか。

校友会ではこのほど、徳山市出身の新進女流彫刻家、笹戸千津子さん(36)「東京小金井市」の作品を
発注した。

笹戸さんは、柳井商工(当時)を卒業後、東京造形大彫刻科に進み、日本を代表する近代彫刻家の佐藤忠良教授に師事。一昨年、郷予定している。

土では初の個展を近鉄松下百貨店画廊で催し人気を呼んだ。

発注している彫刻は、「乙女の裸像」と題し、高さ一〇四センチのブロンズ像で、価格は二五〇万円。竣工式に間に合わせて贈呈し、設置場所は、短大玄関のロビーを

就職情報

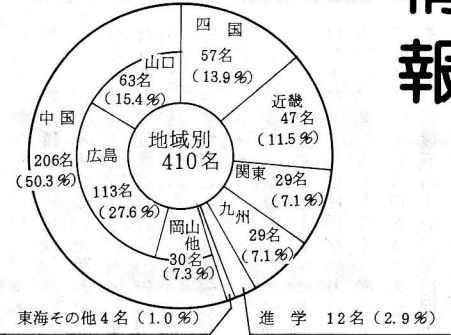
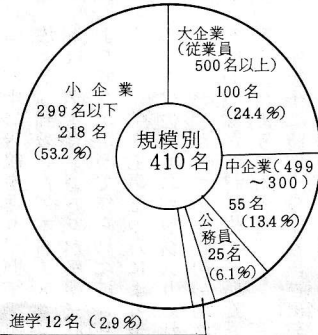
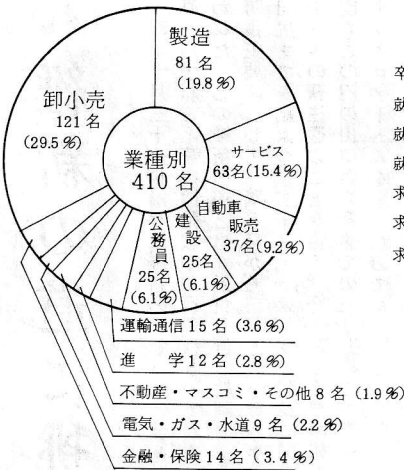
今年の求人状況

依る中小輸出産業への打撃が憂慮されている現状から、曇天が土砂降りとなる可能性もあり、就職戦線も先き行き予断を許さない。

求人社数 1,569社 求人数 4,602名

	100	200	300	400	500
関東	341社 (1,213名)				
中部東海	75社 (265名)				
近畿	283社 (993名)				
中国	518社 (1,247名)				
四国	140社 (327名)				
九州	204社 (538名)				
その他	8社 (19名)				

卒業生数 461名
就職希望者数 419名
就職内定者数 410名
就職内定率 97.8%
求人社数 1,569社
求人数 4,602名
求人倍率 11倍

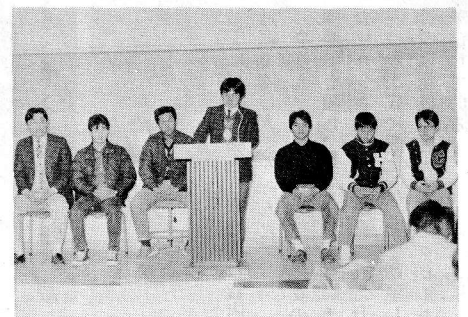


昭和60年度 就職状況

地味している唯一の大学だ、先ず隼より始めよ。で今年は、先ず山口県下に重点を置けり、地元大手有力企業と、数年前から急展開を見せている。宇部テクノポリス構想関連の、山口県誘致企業を目標に、地の利を生かそうではないか、となった。

一ヶ年間を経過して、やや不満足らず、幸いに数名のこれ等の企業への内定を果した。が同時に、本人の或いは本人の父兄のウターン(地元就職)指向との矛盾を抱きかかえる事にもなった。

つまり、これ等の企業は大手であり、しかも前記第一から第三迄の条件はクリアしていると考えられている。いずれも全国規模の企業なので一般学生の希望も多く門戸も狭い。しかも地元勤務は必ずしも可能ではないし、転勤も避けられない。言う迄もなく就職は本人の生涯の大事であり、就職先の良し悪しは本人の幸せを左右しかねない、その様な大事が、たとえ肉親であっても、本人以外の意志に依って阻害されるとしたら、まことに嘆かわしい事ではなからうか。前記企業に入社し、本人が企業人として成長し、会社で貢献すれば、母校の声価も上げる事になり、後進への道も招く事になるのである。



あとがき

今年も例外ではないが、最近の本学卒業生の就職状況を見るに、本人側に余程の事情のない限り、ほぼ全員が就職を果していると言つて良い。①本人に就労の意欲があり、②身心ともに健康であり、③本人が卒業可能な見込みである以上①②③の条件をみたしている者の数を分母として就職率を算出すれば、ほぼ一〇〇%を達成していると考えて良い。

就職部では、昨年初より、就職の量の問題は、すでに解決されていると判断、今年より就職の質の向上に取り組み事とした。良い就職とは、就職先が第一に安定性が高い事、第二に将来性があり、働き易い職場であり、仕事が生甲斐の持てるものである事、第三に社会に適合した業種である事、等々であるが、官公庁を別として、民間企業となると種々様々である。大手工場企業ならば前記第一、第三の条件は充たせる。しかし、残念な、本学に於ける大手工場企業入社の実績はよりよいものではない。

幸いに本学は周南工業地域に立

校友会のみならず、いかがお過ごしてしょうか。徳山大学校友会誌第七号をやつと発刊することができました。今回は、校友会十周年を記念して、昭和六十年七月十三日開催された第四回同窓会の特集を組んでみました。また、この紙面をかりまして機関誌を発行するにあたりまして原稿を執筆していただいた方々に深く御礼申し上げます。校友会誌では、現在各企業で活躍されている卒業生の原稿を募集しています。OB諸氏の活躍ぶりをこれからのとどろく紹介していきますのでよろしく願います。原稿は、一〇〇〇字程度で勤務先を記入し、写真同封の上、校友会事務局までお送り下さい。尚、掲載された方には、校友会より記念品を差し上げています。

また、開学予定の徳山女子短期大学も着々と工事が進んでいます。また、次号にて経過を報告します。これからのみなさんの御活躍、御発展を、校友会役員一同心から祈り申し上げます。